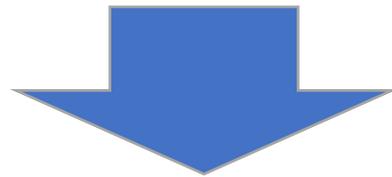


A photograph of four cyclists standing in a field, looking towards a building in the distance. The cyclists are wearing helmets and casual cycling gear. The field is green and appears to be a vineyard or similar agricultural area. In the background, there are mountains and a building with a tower.

ATで求められるコーディネーターとは



- ・AT旅行者の満足度を上げ、地域が正当な対価を獲得するには？  
→地域のストーリーとコンテンツを熟知し、それを具体的な旅程に出来る地域コーディネーターが必要。
- ・ATTA(アドベンチャートラベルトレードアソシエーション)も、地域コーディネーターの重要性を強く認識。
- ・北海道でのAT旅行者拡大に向けて、継続的にツアー造成および催行できる体制を構築するには？  
→地域コーディネーター(DMO等)の拡充・整備・連携強化が必要。



**地域コーディネーターの育成を実施**



A photograph of four cyclists standing in a field of young green plants. They are wearing helmets and cycling gear. The background shows a large building with a tower and mountains under a clear sky. The text '地域コーディネーターの役割' is overlaid on the image.

# 地域コーディネーターの役割



# 地域コーディネーターの役割

AT旅行を提供する機能は3つのレイヤーから構成されており、現在は真ん中にあたる【②地域コーディネーター】の役割を担うプレイヤーがほぼ不在の状況である。



FIT顧客

海外  
エージェント

道内・道外  
エージェント

※**確立された  
該当プレイヤーがほぼ不在**

ガイドカンパニー    ホテル・飲食店    交通事業者

## ①道内・道外エージェント

北海道内あるいは全国対象の国内エージェント。AT顧客が満足する旅行全体のアレンジ・手配・添乗等を行う。

## ②地域コーディネーター

地域単位で存在し、当該地域に精通し、地域で事業を行うガイドカンパニーや観光事業者と連携し、地域内における1~4日程度の旅程の構築、および英語でのガイディングの補助等のコーディネートを行う。

## ③コンテンツ提供者

ガイドカンパニーや観光事業者など、当該地域において、アクティビティ・飲食・宿泊・交通といった旅程に組み込まれるコンテンツを催行する。



地域コーディネーターの役割は大きく分けると5つの段階に分けられる

## 地域コーディネーターが関わるべき5つのステップ

1.  
地域ストーリー  
の作成、地域情  
報の把握

2.  
旅行先の検討段階

3.  
旅程の手配段階

4.  
旅程の遂行段階

5.  
旅行終了後  
(フォローアップ)





ステップ1

# 地域ストーリーの作成、 地域情報の把握



地域ストーリーの作成、地域情報の把握



地域ならではのストーリー

地形や自然の成り立ち

産業の成り立ち

言い伝え、伝承

地域ならではの魅力

文化

景観

人

アクティビティ

食材・食事

地域のみなさんだからこそ  
組み立てることができる価値！！





ステップ2

# 旅行先の検討段階



旅行先の検討段階

◎役割を担う組織  
○場合によって役割を担う組織

旅行先検討から旅行プラン決定までの流れ	道内・道外エージェント 	地域コーディネーター (DMO等) 	コンテンツ提供者 
①把握した地域のストーリーやコンテンツの情報を道内・道外エージェントに共有しておく		◎ (P40参照)	
②AT旅行者へのヒアリングを行い、顧客情報と嗜好を把握する	◎	○	
③ヒアリングの結果に基づき、候補となるディスティネーションの情報を机上で確認し、旅行者へ提供。それを元にAT旅行者より行先や旅行プランについて要望を得る	◎	○	
④AT旅行者からの要望に基づき、旅行プランの調整・作成を行う	◎	◎	◎
⑤AT旅行者へ行程情報や免責事項を伝え、合意を得る	◎	◎	◎



## ④AT旅行者からの要望に基づき、旅行プランの調整・作成を行う

### 道内・道外エージェントから聞いておくべき顧客の情報



- ・旅の目的
- ・誰のための旅行か
- ・体験したい、興味がある内容
- ・フィジカルレベルやアドベンチャーの経験
- ・グループの特性
- ・食事制限とその理由(アレルギー、宗教、趣向など)
- ・温泉入浴の希望
- ・これまで良かったディステイネーション



等



## AT旅行プランの調整・作成において留意すべき点

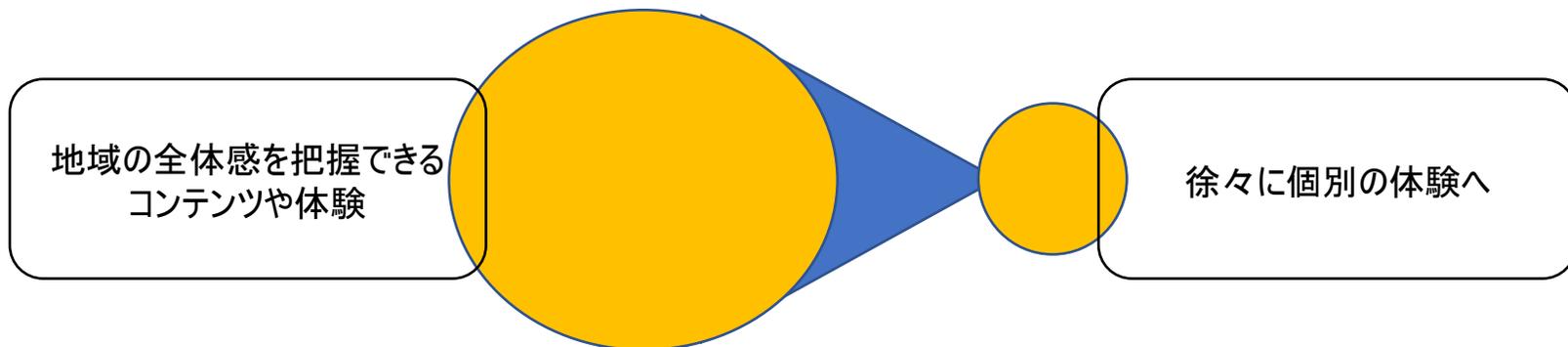
- ✓ 1. ツアーを通じて地域理解を深める事が出来るツアー設計となっているか  
(ストーリーテリングを意識して作成出来ているか)
- ✓ 2. ツアー行程全体でのバランスがとれているか
- ✓ 3. 外国語対応可否の確認
- ✓ 4. 悪天候時のプランBの用意
- ✓ 5. 旅行者の嗜好やフィジカルレベルに合わせた対応が出来る選択肢の保持
- ✓ 6. サプライズ要素を盛り込むことが望ましい



# 1. ツアーを通じて地域理解を深める事が出来るツアー設計と なっているか (ストーリーテリングを意識して作成出来ているか)

## ①全体像から見せる

いきなりコアなコンテンツからツアーを始めるのではなく、地域の全体感を把握できるようなコンテンツから始めることで、自然や文化の背景を把握することができ、コンテンツやツアーに対する理解と満足度が上がる。



④AT旅行者からの要望に基づき、旅行プランの調整・作成を行う

AT旅行プランの調整・作成において留意すべき点

## 1. ツアーを通じて地域理解を深める事が出来るツアー設計と なっているか (ストーリーテリングを意識して作成出来ているか)

### ②インタラクションやチャレンジの機会を提供する

ただ「観る」(見せる)だけではなく、「触れる」「食べる」「作る」「踊る」など、自然や文化と関わりが持てるような体験を取り入れることで、理解や愛着を深めることができる。

また、少し難易度の高いアクティビティや、地域独自の食、体験(旅行者にとっての初めて)を取り入れるなど、チャレンジの機会を提供することで、旅行者が達成感を得ることができるようになる。



## 2. ツアー行程全体でのバランスが取れているか

### アクティビティ

ハード・ソフト

山・海・川

### 食事内容

和・洋・中

肉・魚・野菜

重い・軽い

### 旅行者の体調や体力

到着初日

身体的負担の大きい  
アクティビティの後

移動時間

休憩のタイミング



### 3. 外国語対応可否の確認

各コンテンツが外国語対応出来ているかどうかを確認する必要がある。出来ていない場合は、通訳等によってサポートすることで解決できるのかどうかを検討し、解決できる場合は実施する。解決が難しい場合は、代案を立てる必要がある。

#### ◆確認例(一部)

- ・ガイドが英語対応できるかどうか(アクティビティなど)
- ・展示物が英語での案内(解説)がなされているかどうか(博物館など)
- ・部屋に英語での案内があるかどうか、または英語対応可能なスタッフが常駐しているかどうか(ホテルなど)



## 4. 悪天候時の代替え案の用意

屋外でのアクティビティなど、悪天候により催行出来なくなる可能性が容易に想定できるものは、事前に代案を用意しておく必要がある。

### ◆具体例

- ・登頂を目指す登山を予定しているが、悪天候時は平地あるいは下層でのトレッキングとする
- ・熱気球でのフライトを予定しているが、風向・風量等により中止となる場合はゴンドラで山に登り、そこからの景観を楽しむこととする



## 5. 旅行者の嗜好やフィジカルレベルに合わせた対応が出来る選択肢の準備

天候等によるコンテンツの中止の他に、事前に取得した情報の差異や、旅行中の旅行者自身の状況変化などにより、行程の変更が必要となる場合がある。

### ◆具体例

- ・新たにアレルギー食材が発覚するなど、事前にヒアリングしていた内容に差異がある場合  
→アレルギー対応が可能な飲食店を把握しておくことで、変更が可能
- ・旅行中の疲労や傷病による体調変化の場合  
→身体的活動の少ない文化系コンテンツや、休日とする場合のチェックイン・アウト時間を把握しておくことで、スムーズな対応が可能



## 6. サプライズ要素を盛り込むことが望ましい

旅行者の満足度を上げるためには、事前のヒアリングで得ていた情報を元に、サプライズ要素を盛り込むことが望ましい。

### ◆具体例

- ・旅行中に旅行者の一人が誕生日を迎えるため、夕食時にケーキを差し入れ、他の旅行者にも協力していただき、誕生日を演出する
- ・お酒が好きな旅行者のために、移動の途中で少し遠回りして酒蔵への立ち寄りを取り入れる（旅行者へ提供する行程には記載せず、移動時間を少し長めにとっておく）



地域コーディネーターの役割

ステップ2

旅行先の検討段階

④AT旅行者からの要望に基づき、旅行プランの調整・作成を行う

AT旅行プランの調整・作成において留意すべき点

**最重要!!**

**AT旅行者の趣向や希望** と  
**ツアー行程全体のコンセプト** を  
**関係者間で共有** し、  
それに合わせた調整ができているか



## ⑤AT旅行者へ行程情報や免責事項を伝え、合意を得る

行程情報だけではなく、ストーリーや意図、ハイライトなど、旅行者が興味を引くような内容を必ず伝えること。また、旅行条件書などを提示し、免責事項を伝えた上で、合意を得ること。

### 注意

行程の調整中、あるいは行程を伝えた段階では、まだ旅行が確定していない場合もある。

(複数の選択肢を同時に進めていて決め切れていない場合など)

旅行条件について合意を得て、契約した段階で初めて旅行確定となる。





ステップ3

# 旅程の手配段階



旅程の手配段階

◎役割を担う組織  
○場合によって役割を担う組織

旅程の手配において必要なポイント	 道内・道外エージェント	地域コーディネーター (DMO等) 	コンテンツ提供者 
①連絡体制の確立	◎	 ◎	◎
②緊急時対応のフローチャートの作成・共有	◎	 ◎	◎
③保険の加入・確認	◎	 ◎	◎
④旅程にあわせた備品、防寒具等の準備	○	○	◎
⑤AT旅行者の情報、ツアーのコンセプトの共有	◎	 ◎	◎



## ①連絡体制の確立

関係者間で、緊急時や行程変更等における連絡体制を確認しておく。

(担当者の連絡先、不在時対応など)

## ②緊急時対応のフローチャートの作成・共有

行程中の近隣病院の確認。また、車両を手配する場合、積み込み用のファーストエイドキットなどを準備しておく。

## ③保険の加入・確認

旅行傷害保険への加入が必要か確認する。(エージェントからの依頼など、重複する場合があるため) 必要であれば、加入の手続きを行う。



## ⑤AT旅行者の情報ツアーのコンセプトの共有

P19と同じではありませんが...

**最重要!!**

AT旅行者の趣向や希望 と  
ツアー行程全体のコンセプト を  
関係者間で共有 し、  
それに合わせた調整ができているか





ステップ4

# 旅程の遂行段階



旅程の遂行段階

◎役割を担う組織  
○場合によって役割を担う組織

旅程遂行におけるポイント	道内・道外エージェント	地域コーディネーター (DMO等)	コンテンツ提供者
①AT旅行者への情報の提示	○	◎	◎
②催行中のAT旅行者の不満や要望の共有	◎	◎	◎
③時間（旅程）の管理	○	◎	○
④代替プランの速やかな手配	○	◎	
⑤AT旅行者の体調変化への配慮	○	◎	○
⑥快適さへの配慮		◎	

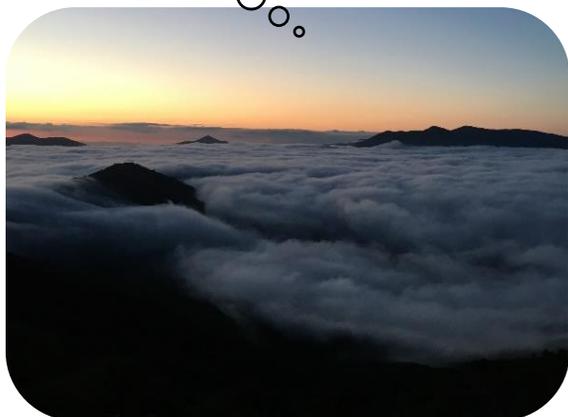


①AT旅行者への情報提示

# 1. 行程の全体像

ツアーの全体像を確認し、期待できる体験(ハイライトや見所など)や、天候などによる変更可能性の懸念点などを伝える

条件が良ければ雲海が見られるかも



雨が降りそうなので屋内でのそば打ちに変更するかも

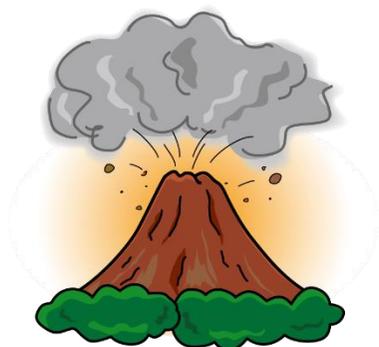


## 2. 行程に関わる基礎情報の説明

ツアーを楽しむ上で把握しておくべき、歴史や文化、自然などの背景について  
基礎的な説明を行う



◆(例)



自然環境



歴史・文化



野生生物



地域コーディネーターの役割

ステップ4

旅程の遂行段階

①AT旅行者への情報の提示

提示時期: **到着日・随時**

### 3. 日本における基本情報

ルールやマナーから、インターネット環境やコンビニエンスストアなど日本における基本的な情報を提供する

◆(例)



コンビニエンスストアの使い方



通信環境



地域コーディネーターの役割

ステップ4

旅程の遂行段階

①AT旅行者への情報の提示

提示時期：**各日**

## 4. 当日の行程の説明

**朝**

食事、宿泊、移動時間、アクティビティの概要などを伝える

**途中**

見学やアクティビティの到着前に服装、所要時間、注意事項を再確認

## 5. 翌日の情報

**一日の終了時**

出発時刻、天候、ふさわしい服装などを伝える



## ②催行中のAT旅行者の不満や要望を共有

旅程催行中に旅行者から出た不満や要望は関係者間で速やかに共有し、その後の行程において変更・反映できないかを検討し、実施する



## ③時間（旅程）の管理

旅程が予定どおり進んでいるか確認する。ズレがある場合はコンテンツ提供者と協力するなどして、調整を進める。

## ④代替プランの速やかな手配

代替プランへの変更が必要となった際は、予め準備しておいたプラン（P15、P16）へ速やかに変更、手配を行う。





## ⑤AT旅行者の体調変化への配慮

旅程催行中は旅行者の体調変化に注意し、兆候がある場合は旅行者に声をかけるなどして確認、必要であれば行程の変更や、病院への搬送を行う。



## ⑥快適さへの配慮

コンテンツ間の移動時などに必要に応じてトイレへの立ち寄りや休憩を挟むなど適宜配慮した旅程遂行を行う。





ステップ5

旅程終了後（フォローアップ）



旅程終了後（フォローアップ）

◎役割を担う組織  
○場合によって役割を担う組織

旅程終了後におけるポイント	道内・道外エージェント 	地域コーディネーター（DMO等） 	コンテンツ提供者 
①評価の共有と必要に応じた改善を行う	◎	◎	◎
②AT旅行者へのアフターフォローを行う	◎	◎	◎





## ①評価の共有と必要に応じた改善を行う

アンケートや旅行中の聴取結果などを関係者間で共有・検討し、コンテンツやツアーの改善へ繋げる。悪かった点だけでなく、良かった点の共有を行うこともモチベーションアップに繋がるため重要。



## ②AT旅行者へのアフターフォローを行う

旅行終了後、旅行者に向けて、適切な時期にレビュー依頼や感謝のメッセージなどを送付することで、リピーターや紹介による新たな顧客の獲得を目指す。



以上が、地域コーディネーターの役割となりますが、

**これをいきなり全て実施するのは  
ハードルが高すぎる！**

ので…

まずは、「1. 旅行先の検討段階」(P9)における「①把握した地域のストーリーやコンテンツの情報を道内・道外エージェントに共有しておく」ことから始めましょう。

具体的には…「ステップ1 地域ストーリーの作成、地域情報の把握」及び「ステップ2 旅行の検討段階」でご説明した内容を踏まえて、モデルプランなどにまとめて道内・道外エージェントへ渡しておきましょう。

旅行先の候補にあがることで、お客様を送ってもらえる可能性が飛躍的に高まります！





コーディネーター候補育成



## ①観光地域づくりコーディネータ組織へのヒアリング

全道のDMOやDMC、地域旅行会社、観光協会等の地域の観光地域づくりコーディネータ組織に訪問。  
AT旅行者の要望に合わせて、地域のコンテンツをオーダーメイドで組み合わせ、できれば英語で提供できるコーディネータの必要性を説明。その候補人材の有無、今回の事業のコーディネータ育成についての参加意思についてヒアリングを実施。



## ②コーディネート候補組織の選出

ヒアリングの結果から、本事業への参加意思のある17組織を選出。

- ・NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構
- ・(一財)丘のまちびえい活性化協会
- ・(一社)黒松内町観光協会
- ・(一社)白老観光協会
- ・(一社)大雪カムインタラDMO
- ・(一社)ふらの観光協会
- ・平取町観光協会
- ・(株)ニセコリゾート観光協会
- ・(一社)余市観光協会
- ・(一社)浦河観光協会
- ・(一社)釧路観光コンベンション協会
- ・(株)コササル
- ・NPO法人知床斜里町観光協会
- ・(一社)滝上町観光協会
- ・(一社)噴火湾とようら観光協会
- ・NPO法人なよろ観光まちづくり協会
- ・根室観光連盟



# ATモデルプランの作成



# AT旅行者向けモデルプランの作成にあたって必要なこと

1. AT旅行者層のプロフィール像、  
趣味、嗜好などのニーズの把握  
と理解

「3. 北海道ATマーケティング戦略」を  
参照

2. ATツアーに対する知見

「1. ATとは」を参照

3. 地域の背景の把握と理解  
(地域の成り立ち、自然、歴史、文化、風土など)

当該資料P7を参照

4. 地域のコンテンツの把握と理解  
(アクティビティ、宿泊施設、飲食、交通、その他観光資源など)

次項にて説明



## 4. 地域のコンテンツの把握と理解

(アクティビティ、宿泊施設、飲食、交通、その他観光資源など)

### 把握しておくべきこと

#### ① 宿泊施設について

- ・客室数等のサイズ
- ・ベッドの有無・サイズ
- ・客室内にトイレ・シャワーがあるかどうか
- ・禁煙か喫煙か、また、喫煙可能箇所について
- ・英語での表示・案内があるかどうか、もしくは話者がいるかどうか
- ・温泉について(大浴場のみか、プライベート浴場があるか)
- ・客層について(構成など)
- ・部屋着の有無



## ②飲食店について

- ・アレルギー表示の有無
- ・ハラールやベジタリアン対応の可否
- ・英語、もしくは写真付きのメニュー表の有無
- ・地元産、道産食材を使用しているかどうか
- ・客層(構成、地元民に人気など)
- ・混み合う時間帯



## ③その他

- ・季節ものや旬について(花や食材の旬、農・漁期など)
- ・洋式トイレの位置



## AT旅行者向けモデルプラン(案)の作成

実践研修として、選出したコーディネーター候補組織と共に、これまでの知見を参考に、各地域のATコンテンツと宿泊、飲食、交通、その他の旅行要素を組み合わせて、AT旅行者向けモデルプラン案の作成を実施。



**16地域 35コース**



## モデルプラン（案）

## ～ 大雪カムイミンタラDMO ～

## テーマ：『大雪山の恵みとともに暮らす、大雪圏域の人々と触れ合う旅』

コーディネート組織名	(一社)大雪カムイミンタラDMO		
料金	150,000円	旅行日数	3泊4日
設定期間	春～秋	催行人数	2名～
料金に含まれるもの	宿泊費3泊分／朝食2回・夕食2回／体験費用／保険料		
必要な携行品	軽登山装備／その他旅行時携行品		
注意点	旅行業3種のため、愛別町を含める場合は旅行会社経由とする必要がある		



# DAY1

11:30	ガイドとミーティング	旭川駅アクティビティセンターにてガイドとミーティング。 ツアーの導入となるお話と、旭川駅～買い物公園周辺の街歩きガイドツアー(昼食含)
15:00	クラフト	緑道帆布(ミチヒト)で帆布バッグづくり
17:00	宿泊	星野リゾートOMO7チェックイン
19:00	夕食	さんろく街はしご酒



行程の全体像(P27)や基本情報(P29)を伝えるとともに、**ツアーテーマ(タイトル)の背景である大雪山圏域の成り立ち等、背景についての基礎情報をインプット。** 昼食箇所として旅行者の嗜好に対応できるよう候補を複数ピックアップしている



## DAY2

10:00	移動	チェックアウト～上川町へ移動
11:30	釣り	大雪漁業部でオシロコマ釣り
14:00	サイクリング	アサヒカワライドのサイクリングガイドツアー
17:00	宿泊・夕食	旭岳温泉に宿泊

大雪山の雪解け水の恵みのひとつ。「水の番人オシロコマ」や「ヤマメ」を養殖できることは非常に貴重。食堂で調理してもらい食べる。同社ブランドの「銀河サーモン」の刺身なども

大雪山の雪解け水を最も活用しているまち、東川の田んぼの間に行くサイクリング。電動小型自転車、クロスバイクなど、使用ギアは参加者のレベルによって変更可能



# DAY3

前日からの繋がり・・・サイクリング時に田んぼの間から見た山々に実際に登ってみる



9:00	ガイドとミーティング	大雪山自然学校ガイドとミーティング
	トレッキング	天人峡 羽衣の滝を上から見るトレッキングツアー
12:45	昼食	ハルキッチンで鹿肉ランチ
15:00	町なか散策	東川町の中心部のショップなどを散策・買い物
17:00	宿泊・夕食	旭岳温泉に宿泊(連泊)

移住者でハンターでもある女性店主が作る鹿肉料理を楽しみながら、この地で生きるハンターとしての考え方、生き方についてのお話を聞く

大雪山の恵みに寄り添ったショップが多い。道の駅周辺の豆腐店、登山に適した靴下ショップなどを回る。外国人移住者の自家焙煎珈琲店などもあり



# DAY4

10:00	移動	チェックアウト～愛別町へ移動
11:30	農業体験	米農家の成田農園で、田んぼのお散歩 & 稲わらクラフト & 農家料理体験
15:00	終了・移動	



農園の夫妻と過ごす一日。雪解け水を使った代表的な農業・稲作に、さまざまな形で触れる。ご主人による稲作のお話を、田んぼや農業機械を見ながら聞き、ご自宅で料理作り体験。食事のあとは、無農薬栽培の田んぼからとっておいした稲わらで、ミニほうきやヒンメリなどを作る交流の時間



## ～ 平取町観光協会 ～

### テーマ：『鶴川・沙流川今昔ツアー』～自然と人間の関わりについて考える3泊4日

コーディネート組織名	平取町観光協会		
料金	47,000円	旅行日数	3泊4日
設定期間	7月～8月	催行人数	2名～8名
料金に含まれるもの	2日目宿泊費／2日目昼食・夕食、3日目朝食・昼食／体験費用		
必要な携行品	帽子、レインウェア、着替え、タオル、洗面具、水筒または飲料水1リットル程度（出発前に購入可）、ザック（25～30ℓ）、防水性のあるトレッキングシューズ、化繊の長袖長ズボン、中間着（フリース等）、薄手の手袋、その他旅行時の携行品		
注意点	移動用車両／通訳が必要／1日目、3日目宿泊別途、（旅行会社向け）		



# DAY1

13:00	ガイドとミーティング	二風谷にて平取ガイドとミーティング。地域の自然と人との関わりについて、ツアーの導入となるお話
13:30	見学	ガイド付きで二風谷アイヌ文化博物館とチセを見学
15:00	クラフト	アイヌ工芸伝承館でアイヌ文様入りマグボトルとペンダントを作成
17:00	宿泊・夕食	びらとり温泉ゆからにてグランピング

行程の全体像(P27)や基本情報(P29)を伝えるとともに、実際の景色を見ながら、**ツアーテーマ(タイトル)の背景である日高地域の成り立ち等、背景についての基礎情報をインプット**

まずは、この地で最初に自然と人との関わりとなったアイヌについて学ぶ

**受動的な要素が続くので、クラフトの体験を入れることで、能動的要素を補完。**  
翌日以降の体験時にも使用可能なマグボトルを制作することで、サステイナブルな視点もアピール



## DAY2

10:30	釣り	仁世宇園で釣り&昼食
13:00	ガイドとミーティング	国立日高青少年自然の家で自然考房のガイドとミーティング。オリエンテーションと出発準備
13:30	トレッキング	滝めぐりトレッキング
16:00	宿泊・夕食	山小屋泊

2日目からは実際に自然を見て体験することに焦点を当てる。ガイドとのオリエンテーション後、トレッキングで宿泊場所となる山小屋を目指す

夕焼けを見ながらリラックス。焚火か薪ストーブでクッキング。夜は焚火を囲んでまったりと。旅のハイライトとして意識



# DAY3

6:00	散策	起床・周辺散策
7:00	朝食	オープンサンド&曳きたて珈琲で朝食
9:00	トレッキング	下山しながらガイドトレッキング
11:00	温泉	沙流川温泉ひだか高原荘で温泉入浴
12:00	昼食	ガイドおすすめの地元飲食店で昼食
13:00		自然考房ツアー終了
14:00	乗馬	ヴェルサイユリゾートファームで乗馬体験
16:30	宿泊	むかわ町内にて宿泊（四季の館など）



ここからは、現在の自然との関わりについて、地域の産業を絡めて体験していく。  
**添乗をするガイド役による説明・誘導が大事なため、事前の打ち合わせをしっかりと行う必要がある。**



# DAY4

10:00	移動	チェックアウト～移動
11:00	チーズ作り	ASUKAのチーズ工房にてチーズ作り体験と試食
15:00	終了・移動	

晴れた日は牧場を眺めながら屋外で試食。天候や人数により開催場所が変更となる旨、オペレーションが必要





# 課題と提案



## コーディネーターを担うことについての課題

### ①受け入れ体制の不足

- ・地域の受け入れ態勢への不安・不足（英語対応を含めて）
- ・コーディネーター役を務められる人員、人材の不足
- ・旅行業免許の取得などハードルが高い

### ②実感・認識の不足

- ・AT市場については理解したが、ATツアーや旅行者に触れる機会がなく、実感が薄い
- ・まだ、現実に市場として見えておらず、必要性を地域にうまく伝えられない



## まずは、それぞれのレベルに合わせてスタート

### レベル1

英語の組み立てやり取りや英語による現地手配は難しいが、地域内の旅行コーディネーターは万全。旅程の組み立てや、やり取りの終わった顧客を通訳付きで送り込んでくれるのであれば完璧に対応できる。

### レベル2

旅程を組み立てるやり取りの終わった顧客が送り込まれてくれば、英語での現地手配は完璧に対応できる。

### レベル3

英語の旅程の組み立てやり取りや現地手配を自立して完璧に対応できる。顧客との直接対応が可能。



各レベルにおける努力の蓄積と、より高い受け入れ態勢の構築のバックアップが必要。そのためにも、本物のATツアーに触れる機会（視察等）を増やし、実感と知見を高めていく取り組みがまずは強く望まれる。

